

のびのび通信

令和2年10月19日

秋田大学教育文化学部附属小学校「いじめ防止対策委員会」発行

子どもを危険から守るためには

女児誘拐、発端はゲームか 「面識のない人にも仲間意識」

横浜市に住む小学4年生の女児（9）を誘拐し、2日半にわたって連れ回したとして、東京都葛飾区の男（38）が逮捕された事件で、容疑者は「オンラインゲームで女児と知り合った」と供述しているという。

携帯型ゲーム機やスマートフォンなどで楽しむ近年のゲームは、インターネットを使ってプレイヤー同士がコミュニケーションできるものが主流だ。例えば人気のバトルゲーム「フォートナイト」は、世界で3億5千万人以上が楽しんでいて、設定によっては面識のない人と遊ぶことができ、イヤホンマイクなどを使って会話をしながらゲームを進める。

スマホ安全アドバイザーの鈴木朋子さんは、「ゲームを通じて毎日のように共通の体験をすることで、面識のなかった人とも仲間意識を持ちやすい。親が『知らない人とは会わないで』と言っても、ゲームの中で親しい友達になっているケースがある。疑うことを知らない子どもは、聞かれば住所など自分のことを話してしまいがちだ。」と言う。

***この二人が出会うきっかけとなったゲームが、「フォートナイト」です。**

これは、9月5日の朝日新聞のデジタル記事を抜粋したものです。

この事件でのポイントは、「オンラインゲーム」です。現在多くの子どもたちは、自分のゲーム機器を持ち、多くのゲームをして楽しんでいます。スマートフォン・タブレット、3DS・Wii U・プレイステーション・任天堂Switchなどの機器が自宅にある場合は、子どもたちはオンラインゲームを行うことができるという状態にあります。

また、オンラインゲーム内では、面識のない人とも一緒にゲーム時間を共有することで、仲間意識を持ちやすくなってしまいます。「このゲームが上手な人だから、仲良くなっていると有利にゲームを進められる」など、子どもたちから積極的に面識のない人との関わりをもつ場合もあるかもしれません。

この事件は、小学生がオンラインゲーム内で知り合った大人と実際に会うことで誘拐事件にまで発展したケースです。特別な事例として片付けるのではなく、我が家でもどの家庭でも起こりうるという認識をもっていただきたいと考えます。家族の中でもう一度、我が家のルールや我が子がどんなゲームを、どんな人としているのかなど実態を確認する時間を設けていただければと思います。

【 家庭のルールを作る 】

- ・「ルールがトラブルから自分自身を守ってくれる」ことをきちんと伝える。
- ・お互いに納得できるよう，話し合っ作る。
- ・子どもが守れるルール，具体的なルールを作る。
- ・守れなかったらどうするか決めておく。
- ・トラブルがあったら保護者に相談するように決めておく。

◎子どもの成長に合わせてルールを見直す。

◎生活リズム等の変化に合わせてルールを見直す。

保護者ができる対応として…

① ゲーム機器の保護者向け設定を活用する。

お子さんが使っている3DS・Wii U・プレイステーション・任天堂 Switchなどのゲーム機器の「設定」や「アカウント管理」，「みまもり設定」などから，各種機能を制限することができます。

② Wi-Fi ルーター等の利用時間帯などを制限する。

Wi-Fi ルーター等で子どもが利用する時間を制限することができる製品があります（例：NEC社の子ども安心タイマー，BUFFALO社のキッズタイマーなど）。親の不在時の16～18時をWi-Fiに繋げないようにするなどの設定ができます。

